

共同研究 調査・資料

■日本常民文化研究所

2020年度は、1件の新規共同研究が開始された。ここでは、各共同研究での調査、資料等の写真を掲載した。詳細な研究活動報告を6～29ページに掲載している。

◆ A. 基幹共同研究「常民生活誌に関する総合的研究」

“日常茶飯”——日本人は何を食べてきたか——予備的研究

期間：2020年～ 代表者：佐野賢治



写真1 「太華茶」を作る（雲南省臨滄市魯史鎮 撮影／楊蕊）



写真2 飯山市富倉のササズシ（撮影／安室知）

◆ A. 基幹共同研究「常民生活誌に関する総合的研究」
布の製作と利用に関する総合的研究
期間：2019年～ 代表者：昆政明



写真1 「渡部つとむコレクション」調査（福島県立博物館／2019年）



写真2 会津の仕事着調査（会津民俗館／2019年）

- ◆ A. 基幹共同研究「常民生活誌に関する研究」 便所の歴史・民俗に関する総合的研究
期間：2019年～ 代表者：須崎文代



写真1 大正期における便所の水洗化の啓発ポスター「今少し文化設備に親しめ」（1919〈大正8〉年開催文部省生活改善展覧会のポスター）画像提供：国立科学博物館

- ◆ B. 基盤共同研究 二神家・二神島の歴史・民俗研究
期間：2016年～ 代表者：前田禎彦



写真1 ニュウノウラ（入ノ浦）あたりから見た三島（横島、中島、小市島）。（二神司朗氏画／1930（昭和5）年・スケッチブックより）

◆ B. 基盤共同研究 日本常民文化研究所所蔵資料からみるフィールド・サイエンスの史的展開
期間：2016年～ 代表者：泉水英計



写真1 第7回公開研究会「我が師を語る——費孝通・中根千枝と中国でのフィールドワーク——」横山廣子氏(2019年1月25日)



写真2 宮本記念財団訪問(2020年7月1日)

◆ B. 基盤共同研究 海域・海村の景観史に関する総合的研究
期間：2015年～ 代表者：安室知



写真1 瀬戸内海魚礁設置計画図



写真2 鳥羽浦鰯楯大漁事之図

◆ C. 個別共同研究 ポルト屏風下張り文書等の予備的研究
期間：2020年～ 代表者：関口博巨



写真1 下張り文書の予備調査 (2020年1月)

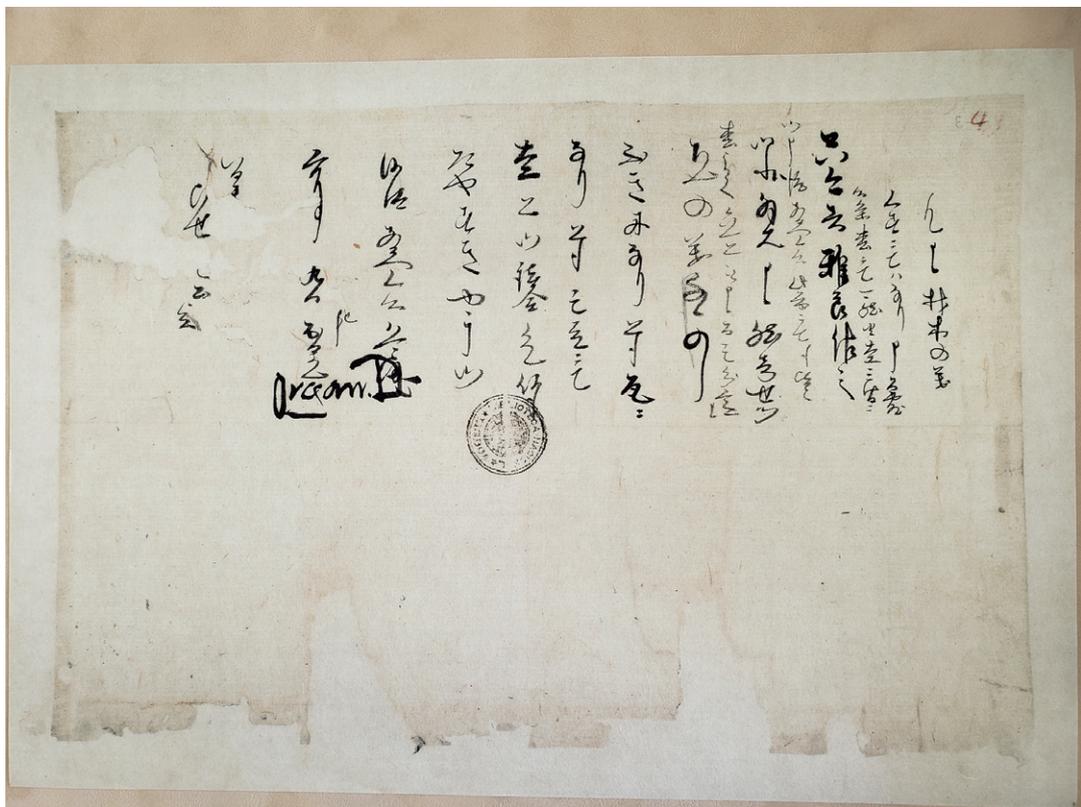


写真2 エヴォラ屏風文書レプリカ

◆ C. 個別共同研究 歴史民俗資料とデジタルファブリケーションの可能性の研究
期間：2020年～ 代表者：関口博巨



写真1 ミニチュア版木の試作（ファブラボ平塚）



写真2 ファブラボみなとみらい

◆研究拠点 気仙沼大島漁協文庫の管理と活用
期間：2016年～ 代表者：安室知



写真1 大島漁協文庫全景 (2016年3月)



写真2 第5回共同研究フォーラム (2019年2月)

◆受託研究 国立研究開発法人水産研究・教育機構所蔵古文書目録作成業務
期間：2001年度より継続業務。ただし、2020年度は契約せず、目録原稿の校正 代表者：安室知



写真1 和歌山県下津町の資料調査 (2015年)



写真2 和歌山県湯浅町の伝建地区の調査 (2018年)

◆受託研究 三宅村郷土資料公開・保存事業
期間：2020年10月14日～2021年3月19日(継続) 代表者：角南聡一郎



写真1 聞き取り調査の様子 (2015年)



写真2 資料写真撮影の様子 (2015年)

■国際常民文化研究機構

国際常民文化研究機構では、公募により採択されたプロジェクト型共同研究が進められている。地域の研究者を助成する目的で「共同研究（奨励）」も合わせて行っている（研究活動報告 48～51・64～71 ページ参照）。

◆共同研究（一般）台湾の「海女（ハイルー）」に関する民族誌的研究

——東アジア・環太平洋地域の海女研究構築を目指して——

研究・成果報告期間：2018年4月1日～2022年3月31日 代表者：藤川美代子



写真1 「紫菜」（ノリ）を採集する女性（許焜山撮影／新北市貢寮区）



写真2 船の上から海中を覗きながらのワカメ切り（藤川美代子撮影／静岡県下田市）

◆共同研究（一般）民具の機能分析に関する基礎的研究

研究・成果報告期間：2017年4月1日～2021年3月31日 代表者：神野善治



写真1 「民具の機能分析に関する基礎的研究」チームによるベトナム民具調査の初日に、フエ科学大学を訪問。親交を深めるとともに、収蔵資料と、日本の出土遺物との類似性や竹の文化のあり方等々、活発な意見交換を行った（於：フエ科学大学歴史学科研究室・棚上には運搬用籠類が並ぶ／2018年10月22日）



写真2 デザイナーの三橋光太郎氏から、「匙」「槌」「鏝」の形態を「動作」の観点から捉え直した展示の解説を聞く（於：武蔵野美術大学美術館・図書館「くらしの造形20 手のかたち・手のちから」展にて／2019年8月18日）

◆共同研究（奨励） ブラジル国サンパウロ州レジストロ植民地における
民具からみた日本移民の生活史の研究
研究・成果報告期間：2019年4月1日～2022年3月31日 代表者：福澤一興



写真1 籠を腰に括り付け、手で摘んだ茶の芽を入れる、気根で作られた籠。日本人の鍛冶屋が製造した茶樹の剪定用ハサミ



写真2 浪江——初期移民が製造していた日本式瓦で、90年ぶりに発見された

◆共同研究（奨励） 熊野水軍小山家文書の総合的研究

研究・成果報告期間：2018年4月1日～2021年3月31日 代表者：坂本亮太



写真1 久木小山家文書の概要



写真2 安宅氏城館跡遠景

新収蔵資料 渡部つとむコレクション

「渡部つとむコレクション」は会津民俗館前館長渡部聖氏が収集した、新潟県から東北地方および北海道のアイヌ関係の資料を含む1千数百点の衣服コレクションである。資料の中核は積雪地帯の農作業に関連した刺し子仕事着で、今年度より3カ年計画で本校に譲渡されることになったものである。ここでは山形県庄内地方の刺し子仕事着を紹介する（詳細は8・32ページ参照）。 ※撮影 横浜市歴史博物館 吉川久雄



写真1 刺し子ジバン



写真2 写真1の前身頃



写真3 写真4の部分。引き網の擦れ痕が残る。



写真4 刺し子ソデナシ。橇での堆肥運搬時に着用



写真5 刺し子ジバン



写真6 写真5の袖部分。簡素であるが手の込んだ刺し子が施されている。

収蔵資料展「アチックの出版 1934～1945」

期間 2020年4月1日(木)～4月7日(水)

会場 神奈川大学横浜キャンパス3号館 神奈川大学日本常民文化研究所展示室

本展では、戦前期のアチック・ミュージアムで出版された書籍を、内容に即して分類して展示した。ここでは、1934年に出版された『小学生の調べたる上伊那川島村郷土誌』の本文や図版の一部を紹介し、当時としてはできる限りの贅沢をしたとされる冊子のつくりの一端をみたい(報告文34ページ参照)。

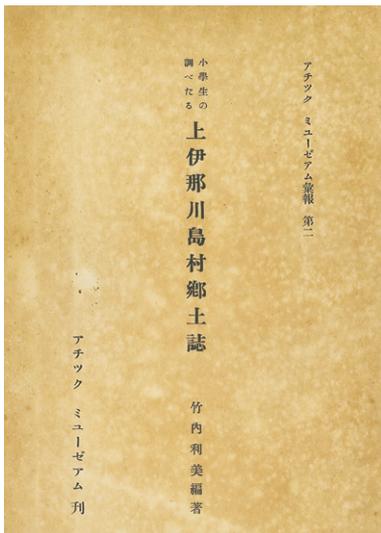


写真1 『小学生の調べたる上伊那川島村郷土誌』表紙

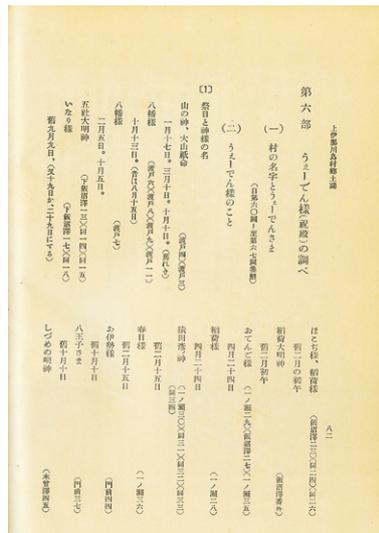


写真2 本文



写真3 第60・61図「村の名字とうまーでんさま」

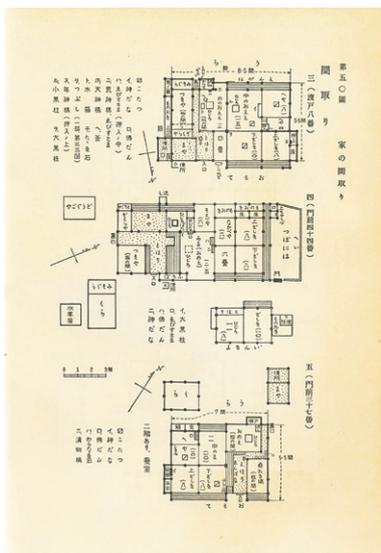


写真4 第50図「家の間取り」

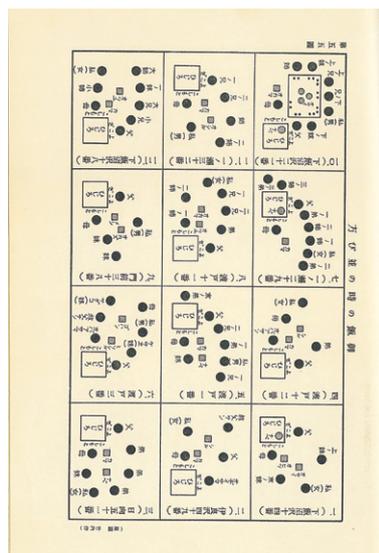


写真5 第55図「御飯の時の並び方」



写真6 第21図「ふね(田の高低をならすにふねで土を運ぶ。)・第22図「まねぐり(馬に六把、自分で一把握負って刈敷を田へ運ぶ。)